令和４年度　事業報告書

自　令和４年 ４月 １日
至　令和５年 ３月 31 日

特定非営利活動法人 地球学校

Ⅰ．総括

地球学校は NPO になって 22 年目の年でした。コロナ禍３年目はオンラインが日常ではありつつ、対面の教室やイベントも開催できました。「緊急事態宣言」「まん延防止等重点措置」が出されることはなく、室内でのマスクは必須ながら公共施設が閉鎖されることがなかったためです。

活動資金となる助成は２つありました。「東急子ども応援プログラム」は継続助成が決まり、地球っ子教室の日々の運営資金として子どもたちの学びを支えてくれました。「ベネッセこども基金」助成２年目は、外部の協力を得てオンライン学習教材の幅が広がりました。

日本語教室では、オンラインレッスンが主流で、法人は減少したものの個人レッスンは増加しました。１月からは KANJI カフェを対面で毎週土曜日に開催できるようになりました。２回開催したイベント「にほんご×しゃべりば」も、７月は対面で開催しました。横浜刑務所での日本語レッスンはコロナの所内感染により開催は少なかったものの継続中です。日本語教師のための勉強会は、ほぼ毎月開催しました。好評のテーマは、希望に応えて再開催しました。講師によるレッスン報告や、スタッフからの事務連絡など、Google Workspace の活用も日常になりました。

地球っ子教室では、毎週土曜日の対面教室にもオンライン教室にも子どもたちの笑顔があふれる一年となりました。夏休み教室も春休み教室も通常通り開催できました。イベント「漢字王決定戦」は今年も年２回ハイブリッド形式で開催し、第 30 回の節目を迎えました。２月には外部企画のイベント「ソーシャルサーカス」（認定 NPO 法人スローレーベル主催）を子どもたちといっしょに体験しました。内部研修は１月（算数）と３月（国語）の２回、教科につなげる日本語支援をテーマに行いました。運営委員会は年間３回有識者３名を招いて行いました。

多文化交流事業は、今年もコロナ禍で制限される一年でしたが、オンラインのおかげも少なからずあり、NPO 内部の交流会は参加人数が増えました。今年度のかながわ市民活動フェアは、11 月 19 日（日）に会場対面型で、11 月 19 日～12 月 18 日にウェブサイト上で開催され、両方に参加をしました。12 月の寄付月間では、継続して日本大通実行委員会に参加し、賛同パートナー賞をいただきました。

ベネッセこども基金の助成による事業は「外国につながる子どもたちの日本語学習を支える教室のオンライン化事業」の２年目でした。３つの重点実行項目について、今年も複数のチームで活動しました。日中は働いている方も多く、夜８時半開始のミーティングが定番です。地球っ子教室内部の参加者が大幅に増え、事業評価研究会に参加したこともあり、組織の基盤作りも進みました。技術的には外部の専門家に助けられています。完成した教材は、一部一般公開をしました。

このように事業活動が多岐にわたるとともに、オンラインツールの利用が日常的な一年でした。６月には「キワニス社会公益賞」を受賞して副賞 10 万円をいただたこともあり、寄付金収益が増えました。また、日本語教室のオンラインレッスンが定着し、依頼が増えるとともに継続率も高いことから、当期の経常収支は黒字となりました。その分、コロナ禍で増えた事務作業や事業手当に充てることができるようになりました。社会の変化に柔軟対応し、外部とのつながりを大切にすることで、より成果の多い一年になったと感じています。

Ⅱ．事業の成果

日本語教室では、今年度の登録数は 57 名、19 の国と地域の学習者が日本語を学びました。新規学習者は 24 名、法人向けレッスンは３組５名でした。学習者は大人に限らず、児童生徒は３名います。１年間の総学習時間数は約 1607 時間と前年度より減少しましたが個人のオンラインレッスンは増加しています。日本語教師の登録は 37 名（うち新規３名）、25 名がオンラインレッスンを担当しています。教師対象の勉強会は計 10 回行いました。日本語能力試験（JLPT）は７月・12 月の２回実施され、延べ 12 名が受験しましたが、合格者は３名でした。イベント「にほんご×しゃべりば」は計２回、７月 31 日に県民センターで「ゲームで話そう」、１月 29 日にオンラインで「漫才作成講座」を開催しました。参加者は日本語の学習者と日本語教師で、延べ 22 名でした。

地球っ子教室では、土曜教室は４月９日から３月 11 日まで計 35 回、対面とオンラインで同時開催しました。時間帯は、対面教室は 13 : 15～14 : 30、オンライン教室は 13 : 30～14 : 30 です。夏休み教室は７月と８月合わせて５日間、春休み教室は３月に２日間、開催しました。年間の登録子ども数は 33 名で、幼児３名・小学生 22 名・中学生８名でした。子どもたちがつながる国は、多い順に中国・オーストラリア・ネパール・フィリピン・オランダ・マレーシア・アメリカでした。土曜教室の延べ参加人数は、子どもは 499 名で前年比 102%、支援者は 467 名で前年比 92%でした。今年度の登録支援者数は 42 名で、うち 13 名が新規参加でした。社会人 33 名、大学生７名、高校生２名でしたが、１日だけ参加した支援者を入れると、さらに増えることになります。教室活動としての内部イベント「漢字王決定戦」は計２回、10 月（参加 15 人）と３月（参加 14 人）に土曜教室内で、県民センターとオンライン Zoom でハイブリッド開催しました。

多文化交流事業では、12 月の寄付月間は今年もオンラインでイベント「漢字王決定戦」を開催しました。参加者は計 32 名で、海外ではタイ、ボリビア、ニカラグア、グアテマラ、アメリカ合衆国からの参加もありました。恒例の「かながわ市民活動フェア」は 11 月 19 日（日）にかながわ県民センターで開催（ウェブサイトでも開催）され、13 名の方が来訪されました。地球学校主催の会員交流会は 6 月（参加者 29 名）、9 月（同 21 名）、10 月（同 15 名）、11 月（同 20 名）と 1 月（同 18 名）に開催しました。

ベネッセこども基金の助成による事業では、３つの重点実行項目を実施しました。①「オンライン学習教材」では２つのグループに分けて各々毎月１回ミーティングを重ねました。２年目の「オンライン遊び」は参加 10 名、１年目の「教科・日本語」は参加 12 名でした。開催した２つの「講座」には合計 43 名が参加しました。②音読用の「物語の作成」では、９名の協力者によって３つの物語を各２種、やさしい日本語で書き下ろしました。「物語のイラスト」は著作権に配慮したオリジナルの絵を３名が描いてくれました。③「イベント漢字王決定戦」では４名の協力により、年２回の内部イベントの問題作成と進行を行いました。「ゲーム漢字王決定戦」では、新しく２種類のコンテンツを＜世界の文字＞＜仲間で集まれ＞を準備し、外部のスキルを借りて地球学校のウェブサイトに公開しました。

Ⅲ　事業内容

１．日本語教室に関する事業

・内容　　日本語上達を希望する学習者への日本語指導、日本語学習支援
・日時　　通年　オンラインレッスン 1606 時間 45 分
・場所　　かながわ県民センター、オンライン
・従事者人員　　日本語教師資格を有する正会員　37 名
・受益対象者　　日本語学習を希望する母語が日本語ではない学習者　57 名
・支出額　　2,264,726 円

２．地球っ子教室に関する事業（外国人児童生徒への支援）

・内容　　外国につながる子どもたちの学びを支える教室の開催
・日時　　通年の土曜教室（35 回）・夏休み教室（５日間）・春休み教室（２日間）
　　漢字王決定戦（２回）、運営委員会（３回）、内部研修（２回）
・場所　　かながわ県民センター、オンライン
・従事者人員　　会員・支援者（一般・大学生）　延べ 467 名
　　外部運営委員　３名
・受益対象者　　外国人児童・生徒　延べ 499 名
・支出額　　1,043,619 円

３．多文化交流にする事業

・内容　　寄付月間イベント、市民活動フェア、会員交流会ほか
・日時　　通年　全７回
・場所　　かながわ県民センター、オンライン
・従事者人員　　担当スタッフ　７名
・受益対象者　　会員、各教室の学習者・子ども達、日本在住外国人、日本人 延べ 253 名
・支出額　　34,568 円

４．ベネッセこども基金の助成による事業（３年計画の２年目）

・内容　　外国につながる子どもたちの日本語学習を支える教室のオンライン化事業
　　①支援者向け講座とオンライン学習教材作成
　　②オンライン音読用「ものがたり」教材作成
　　③イベント漢字王決定戦の開催とゲーム漢字王決定戦の Web 公開
・日時　　通年
・場所　　オンライン、地球市民かながわプラザ
・従事者人員　　会員・支援者・外部専門家　43 名
・受益対象者　　地球っ子教室及び一般の外国人児童生徒とその支援者
・支出額　　2,866,938 円